

バングラデシュ・ビジネス関連ニュース (2018年3月)

～現地新聞記事の要約～

(為替レート 1タカ=1.291円)

産業別ニュース	
食品	<p>【ケチャップ需要 急増】 トマトケチャップの需要が急増している。主な牽引役は、都市居住者によるハンバーガーやポテトチップスの消費量の増加である。トマトケチャップ及びトマトソースの市場規模について、6～7年前は2.5億ドルであったものが、現在は30億ドルにまで成長している。足元10,000トンの国内需要の内、30%は輸入で賄われている。(3日 Financial Express 紙)</p> <p>【ドミノ・ピザ事業開始へ】 インドでドミノ・ピザを運営している Jubilant FoodWorks と Golden Harvest QSR がバングラデシュに合弁会社を設立し、近々ドミノ・ピザの事業を開始する。同社の関係者は「バングラデシュにおけるピザ市場は大きな潜在性を有している」と述べた。(7日 Daily Star 紙)</p> <p>【Meghna 3億ドル投資 複数工場立ち上げ】 バングラデシュの大手食品総合メーカーMeghna は、3億米ドルを投資して複数の生産工場を立ち上げる。この投資により3,500人の雇用が創出される見込み。生産能力を拡張する対象製品は、飲料、食用油、ティッシュ、小麦粉、セメント等多岐に渡る。(26日 Daily Star 紙)</p>
農業	<p>【ローカル農業機械メーカーの健闘】 バングラデシュ農業省農業普及局(DAE)は次のように述べた。農業機械の国内市場規模は1,000億タカで、その20～25%を国内メーカーが供給している。基本的にこれらの国内メーカーは主要部品を中国、日本、韓国などから調達してきてバングラデシュで組立てている。マーケットに占める割合こそ大きくはないが、国内メーカーが製造する農業機械の品質は中国製のものよりも優れているといった声も聞くようになった。(20日 Daily Star 紙)</p>
アパレル	<p>【アパレル製品 日本向け輸出続伸】 バングラデシュを原産地とするアパレル製品は、日本、インド、中国等での輸入の際、特恵関税制度により関税が免除されている。日本へのアパレル製品の輸出入額が増加傾向にあるのも、当該制度による恩恵の表れである。ナラヨンゴンジ県にある Metro Knitting & Dyeing</p>

	<p>Mills は、日本への輸出量が最近増加し、仕向国として日本は EU に次いで最多であると述べた。(13 日 Daily Star 紙)</p> <p>【経済特区の活用を通じた投資促進】 経済特区庁 (BEZA) は縫製品製造業・輸出業協会 (BGMEA) に対して、チッタゴン地区にあるミルサライ経済特区の約 2 平方キロメートルの土地を提供すると発表した。政府は縫製業の投資促進を推し進めている。(21 日 Daily Star 紙)</p>
化学	<p>【プラスチック製品 輸出堅調】 輸出振興庁は次のように述べた。2017 年のプラスチック製品の輸出額が前年比 31% 増の 1.1 億米ドルとなった。家庭用品や衣料アクセサリ (ハンガーなど) などの完成品或いは半製品の輸出が多く、米国、カナダ、EU、中国、インド等に輸出されている。世界のプラスチック市場規模は 5,460 億米ドルと言われているが、バングラデシュはその 0.6% (32.8 億米ドル) の供給を担っている。(19 日 Daily Star 紙)</p>
ヘルスケア	<p>【製薬メーカーの利益躍進】 国内主要製薬メーカーが揃って利益を伸ばしている。1 人当たりの国民所得が上がり、それに伴って医療関連費の支出も増えてきていることが貢献している。2010 年の 1 人当たりの医療関連費支出は 23 米ドル (/年間) であったのが、2015 年には 37 米ドルにまで上昇しており、今後もこの傾向は続くと思われる。(19 日 Daily Star 紙)</p>
情報通信	<p>【新たな海底ケーブル導入へ】 BSCCL (バングラデシュサブマリンケーブル社) が、第 3 海底ケーブルの設置準備を開始した。急増するデータ (バンドワイズ) 需要に供給が数年で追い付かなくなるため、これに対応するもの。(14 日 Daily Star 紙)</p> <p>【Visa コンタクトレス決済サービス導入】 Visa はコンタクトレス (非接触) 決済サービスの「Visa payWave」を 2018 年 10 月までに導入する。この機能により、カードリーダーに差し込んだり、スワイプしたりする必要がなくなる。10 月以降に発行される Visa カードには全て payWave 機能が付されることとなる。</p>
金融	<p>【保険会社 人材獲得に苦慮】 保険会社である Green Delta は次のように述べた。バングラデシュにおける保険産業の歴史は浅く、まだまだ人材が育っていない。保険会</p>

	<p>社に就職する新卒社員の給与水準は銀行と比べても半分程度と低く、若者の関心は低い。バングラデシュでは 2011 年に保険開発監督機構 (IDRA) が創設されたが、法改正が順調に進んでいないことなど官側にも課題が多い。官民が力を合わせ、同国の保険産業を立ち上げていく必要がある。(29 日 Daily Star 紙)</p>
<p>電子機器</p>	<p>【中国製スマートフォン存在感増す】 中国製スマートフォンの存在感が増している。足元、スマートフォン輸入量全体の内、中国製が 22%を占める (2006 年は 12%であった)。Huawei、Oppo、Xiaomi、Tecno や Vivo 等の製品がバングラデシュで流通している。(5 日 Daily Star 紙)</p> <p>【LG 現地製造開始】 LGは現地パートナー-BUTTERFLYと共に、バングラデシュでLEDテレビ、冷蔵庫及びエアコンの製造を開始すると発表した。今年開催されるサッカー・ワールドカップに向けて、まず LED テレビから製造開始する。Samsung は昨年家電工場を立ち上げて、既に製造を開始している。(15 日 Daily Star 紙)</p>
<p>建設</p>	<p>【鉄筋価格が上昇】 米国政府による鉄鋼・アルミ製品に制裁関税を課すとの発表を受け、バングラデシュにおいても、鉄筋の原料となる鉄スクラップの輸入価格が値上がりし、建設用鉄筋価格が上昇している。建設業界への影響が懸念されている。(21 日 Daily Star 紙)</p>
<p>自動車</p>	<p>【モーターショー開催 水素燃料電池自動車 MIRAI 初登場】 ダッカの国際会議場 (ボシュンドラ) で、ダッカモーターショー2018 が 3 月 23 日から 3 日間開催された。水素燃料電池自動車 MIRAI が初めてバングラデシュで披露された。(23 日 Daily Star 紙)</p> <p>【Honda 二輪車新工場 本年中に稼働開始】 Bangladesh Honda Private の石井 CEO は次のように述べた。Honda はさらなる生産・販売台数拡大に向け、二輪車の新たな生産工場をムンシゴンジ県・アブドルモネム経済特区に建設しており、当工場の稼働を 2018 年中に開始させる予定である。輸入部品にかかる補足税の税率が 2016 年 12 月に 45%から 20%に軽減されたこと、部品の現地調達率を高めることができていることなどから、よりコスト競争力のある販売価格で提供できるようになるであろう。(23 日 DhakaTribune 紙)</p>

	<p>【自動車用ジュート供給国としてのバングラデシュ】</p> <p>世界における車両の内装向けジュートの需要は年間約 10 万トン。その内、バングラデシュが 1.2 万トン供給しているが、当該供給量の成長率は毎年 5%程度に留まる。過去には政府による輸出制限が突然行われ顧客（カーメーカー）に負担をかけたこともあり、安定した供給による顧客からの信頼獲得が課題である。（27 日 Daily Star 紙）</p>
電力	<p>【一般消費者による太陽光の電力販売が可能に】</p> <p>バングラデシュ政府は、4 月から一般消費者又は民間企業が太陽光によって発電した電気を政府に販売できるようにするガイドラインを最終化したと述べた。政府は、まずメーカー等の工場に設置された比較的大規模なソーラーパネルで発電した電気を買収することから始める。全国的な電力不足に対応する取り組みの一環である。（24 日 Financial Express 紙）</p> <p>【LNG 輸入によりガス料金上昇】</p> <p>Ama Muhith 財務大臣は、これから輸入される LNG の影響で、現行の（CNG による）廉価なガス料金を提供し続けることは難しいとの考えを示した。Petrobangla によると、LNG の輸入が開始された後のガス料金は、現行料金と比較して倍程度に値上がりするであろうと述べているが、政府が幾分か補助し、消費者にとっての負担が大きくなりすぎないように対処するもよう。（25 日 Financial Express 紙）</p>
物流	<p>【釜山～チッタゴン コンテナ船の直行便始まる】</p> <p>釜山（韓国）とチッタゴン（バングラデシュ）間のコンテナ船直行便の運航がスタートした。3 月 25 日に、その第一号がチッタゴン港に到着した。これまで釜山を出港したコンテナ船がシンガポールを経由してチッタゴンに到着するまで概ね 25～30 日要していたが、この直航路線により、14 日で両港の往来ができるようになった。（26 日 Financial Express 紙）</p>
分野横断的ニュース	
マクロ経済	<p>【外国投資促進を】</p> <p>バングラデシュ訪問中の中尾アジア開発銀行総裁は、「もしバングラデシュが 2041 年までに先進国入りをしたいのであれば、今後 20 年間にわたって毎年 10%以上の経済成長を続ける必要がある」と述べた。また同総裁は「バングラデシュは、中国が 1990 年代～2000 年代に行ったような真摯な努力を行わなければ、目標は達成できない。中国で外国投資は GDP の 2～3%を占めるが、バングラデシュでは僅か 0.6%</p>

	<p>しかない」と述べ、外資促進の重要性を強調した。(1日 Daily Star 紙)</p>
<p>財政 税制</p>	<p>【開発予算執行額 増加】 バングラデシュ政府による今年度当初 8 か月間 (2017 年 7 月～2018 年 1 月) の開発予算 (ADP) の執行額は、前年同期比 35%増の 6, 237 億タカに達した。この内、海外援助プロジェクトによる執行額が 2, 534 億タカで、前年同期比 14. 36%増の伸びを見せた。(11日 Daily Star 紙)</p>
<p>金融・物価・ 為替</p>	<p>【海外送金受取額 引続き堅調】 2018 年 2 月の海外送金受取額は、タカ安ドル高の為替相場を背景に、前年同月比 22. 13%増の 11. 4 億ドルに達した。(2日 Daily Star 紙)</p> <p>【民間セクター向け貸出額続伸】 銀行の流動性危機と言われている状況ではあるものの、2018 年 1 月の民間セクター向け銀行貸出額の増加率は前月比 18. 36%を記録し、前月の 18. 13%から続伸した。銀行関係者は「民間セクターにおける活発な事業拡大により融資の借入需要は増加している」と述べた。(2日 Daily Star 紙)</p> <p>【商業銀行の農業金融への関心高まる】 今年度当初 7 か月間 (2017 年 7 月～2018 年 1 月) の農業セクター向け融資貸出額は、前年度同期比 4. 47%増の 1, 270 億タカとなった。商業銀行の農業金融への関心が高まっている。(4日 Daily Star 紙)</p> <p>【銀行債務不履行率、依然として高止まり】 2017 年の銀行全体における融資債務不履行率が、前年比約 20%増加した。2017 年 12 月時点の銀行債務不履行率は 9. 31%であった。(16日 Daily Star 紙)</p> <p>【為替 ドル高タカ安の傾向続く】 外国為替市場について、昨年 2017 年 3 月 15 日は 1 米ドル 80. 65 タカであったが、2018 年同日には 83. 50 タカとなり、じわじわとドル高タカ安が進んでいる。輸出、(諸外国からの) 海外送金等による外貨獲得量が安定していないことが要因とみられている。幾つかの商業銀行では、米ドル建て L/C の輸入決済額が、銀行の保有する外貨保有量を上回ってしまっている状況が発生している。(20日 Daily Star 紙)</p>

<p>貿易</p>	<p>【スリランカとのFTA 本年中署名目指す】 バングラデシュ商業省は、スリランカとの2国間自由貿易協定 (FTA) の署名を2018年中に行う意向である、と述べた。インドとも同様の協定締結に向けて協議を進めている。(22日 Daily Star 紙)</p>
<p>雇用問題 ジェンダー その他 社会問題</p>	<p>【工場のオートメーション化進む 女性従業者減少へ】 民間シンクタンクの調査によると、縫製工場等における機械化が進み、特に女性の労働者数が減少していることが明らかになった。縫製工場で働く労働者の男女比率は、2015年は女性64%、男性36%であったものが、2016年は女性60.8%、男性39.2%となった。大規模工場の43%、中規模工場の25%で機械化が進んでいる。業界関係者は、「工場主は、女性は機械の扱いが不得手と捉え、男性の労働者を増やしている」と指摘した。(4日 Daily Star 紙)</p> <p>【女性起業家の社会進出 ランク最下位】 MasterCard 社が「女性起業家の社会進出度」の調査結果を発表し、バングラデシュは57か国中最下位であった。バ国における起業家数全体に占める女性起業家数の割合は世界的に見ても高い(バ国：25.9%、米国：25.5%、フランス：24.6%)。他方で、女性起業家がアクセス可能な教育、金融サービスが限定されており、女性起業家をサポートする環境が整っていない。(10日 Daily Star 紙)</p>